

2026 年度(令和 8 年度)学校評価自己評価表

城南中学校区	校番 03	福山市立 南小 学校
最終更新日		2026年(令和8年)4月16日

I 福山市

めざす姿	すべてのこどもたちが、自分自身の成長を実感できる学校教育の実現
------	---------------------------------

II 中学校区

<p>前年度学校運営協議会(学校関係者評価)の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 子ども達の主体性や多様性を表現する場が設定されており、教職員のサポートが適切に行われている。 生徒自身が考え、決めて、選ぶことを大切にしていることが伝わる。 学校と家庭、地域と家庭のつながりに課題がある。 	<p>児童生徒の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 「自ら考え、決めて、選ぶ」ことが多い児童生徒に定着している。 知識、技能の定着に課題がある。 授業への姿勢や、家庭での過ごし方など、学習基盤になる部分の改善が求められる。 	<p>育成する資質・能力</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己を認識する力 自分の人生を選択する力 表現する力 	<ul style="list-style-type: none"> めざすこども像(義務教育修了時の姿) <ul style="list-style-type: none"> 自分が打ち込めることを見つけ、目標に向かって一生懸命取り組む児童生徒の育成 地域から学び、社会に貢献する児童生徒の育成 中学校区として統一した取組等 <ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領に立ち返り、知識・技能の定着にこだわった授業づくりを各校で実践する。 総合的な学習の時間や、特別活動を中心として地域と協働した教育内容を実践する。
--	--	---	--

III 自校

<p>学校教育目標</p> <p>自ら学び考動する子</p> <p>「よく考える子・思いやりのある子・たくましい子」</p>
--

<p>現状</p> <p><児童生徒></p> <ul style="list-style-type: none"> 児童がアイデアを出し合ったり選択・判断したりする場を大切に、活動ごとのふり返りを蓄積していくことで、「学校での活動を通して成長している」という自己肯定感が高まってきた。(児童アンケート:86%) 積極的に少人数での話し合いに臨み、根拠を示しながらわかりやすく伝えようとする意欲が高まっている。一方で、相手の話を最後まで聴き、建設的に話し合ったり、思考をつなげて深めたりすることができにくい。 学年が上がるにつれ、家庭学習やゲームの時間など、基本的な生活習慣の定着に課題が見られている。 <p><授業></p> <ul style="list-style-type: none"> 学習のゴール(何ができるようにするか)を児童と共有し、個の状況に応じた選択肢や支援を工夫する授業づくりに取り組んでいる。学力調査において、40%未満の児童の割合は概ね減少している。

<p>育成する資質・能力</p> <p>〈課〉</p> <p>めざすこども像</p> <p>〈自〉</p> <p>〈コ〉</p>	<p>「認識する力」【課題発見・解決】</p> <p>「選択する力」【自己決定】</p> <p>「表現する力」【コミュニケーション】</p> <p>身の回りの様々な出来事を自分のこととしてとらえ、自分の課題を見つけ、解決に向けて粘り強く取り組むことができる。</p> <p>自他ともにプラスになる行動を選択・判断し、結果を振り返って次に活かすことができる。</p> <p>自分の考えを表現し、相手の考えを詳しく聴き交流し合う中で、互いの思考をつなげて深め、よりよい解を創り出すことができる。</p>
<p>研究</p> <p>テーマ</p> <p>内容等</p>	<p>「主体的・対話的で深い学び」の創造</p> <p>～ 見通しと見取りを往還し、児童の学びの変容を可視化する授業づくりを通して ～</p> <p>児童の学びの過程を重視するとともに、その過程における児童の姿を丁寧に見取り、指導と評価を一体的に行い、学習者の視点と授業者の視点の両面から、学びの課程とその成果を捉え、授業改善を図る。</p>
<p>めざす授業の姿</p>	<p>①「主体的な学び」の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> 単元や授業の導入において、児童の「なぜ」「どうして」から生まれる課題が設定され、学習の振り返りが次の学習に活かされる授業。 <p>②「対話的な学び」の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習したことを使った考えの説明の場や、互いの考えを最後まで聴いて話し合う場が大切にされている授業。 <p>③「深い学び」の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> 教材研究を通してねらいを明らかにし、児童自身が目標にできる授業。

福山市立 南小学校

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)			
							□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価
3	主体的・対話的に学ぶ力を高める。	★	見直し	一人一人の考えの 意味や価値を捉え、 活かす授業を創り、 学力の定着を図る。	① 学習指導要領に立ち 返りながら、児童が主 体的に学習に臨める ような素材研究や教 材研究を行う。 ② 核となる問いを明らか にするとともに、児童 に具体的なめざす姿 を示し、見通しと見取 りを充実して指導と評 価の一体化を図る。	① 授業づくりポートフォ リオのアンケートにお いて、肯定的な回答 の児童75%以上 ② 学力テスト(4~6年) において、正答率40% 未満、重点単元のテ スト(1~3年)にお いての正答率60%未 満の児童を各10%未 満								
2	思いやりの心 をもち、楽しい と思える学校 を創る。		見直し	主体的・対話的に 考動することで、 児童の自己効力感 を育成する。	① 学級活動、縦割り班 活動、学校行事、 児童会活動等を通 じて、自分自身の活 動についてふり返り シートを作成し、自 己の成長をポート フォリオにする。 ② 児童の振り返りをも とに、教職員の中 でふり返りシートの 内容を交流する研 修を設ける。	① 児童アンケート「学 校での活動を通して 、成長している所が ある」を85%以上 ② 長期休業中に児童 のふり返りシートを 交流する研修を1回 以上設ける。								
1	基本的な生活習 慣を身に付け、 体力づくりに 励む。	★	新規	主体的に健康な 体づくりに取り組 むことができる。	① 児童の体を動かすこ とに興味・関心をも てる活動(長縄大会 、外遊びウイーク など)を学期に1回 以上実施する。	① 児童の体を動かすこ とに興味・関心をも てる活動(長縄大会 、外遊びウイーク など)を学期に1回 以上実施する。								

				② 健康教育(生活習慣・学校保健・学校安全・食育)を充実させるための研修を学期に1回以上行う。	② 児童アンケート 「普段(月曜日から金曜日)、1日何時間くらいスマートフォンやタブレット端末を使用していますか(スマートフォンやタブレット端末を使って学習する時間は除く)」 1時間未満の児童80% ② 保護者アンケート 「スマートフォンを使う際のルールを決めている」 肯定的評価80%									
1	教育公務員としての自覚をもち、笑顔と元気で子ども達と向き合える教職員を目指す。	新規	地域、保護者が「安心できる」と言える学校を創る。	① 児童の学びの足跡を保護者に見てもらったり、児童の学びの姿を様々な形で発信したりする。 ② 7時間45分を意識した手法や仕事内容の見直しを行い、業務改善に努める。	① 保護者アンケート 「学校に安心して児童を通わすことができる」を85%以上 ① 保護者アンケート 「様々な場面を通して、子ども達の学びの姿が伝わってくる」を85%以上 ② 年間時間外勤務時間360hを超える教職員を40%未満にする。									

[プロセス評価の評価基準]

[達成評価の評価基準]

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。